

「現代の志野」を追究

鈴木藏さんガス窯で作陶、独自の色彩



本紙のインタビューに創作の姿勢を語る鈴木藏さん
＝2022年2月、多治見市虎溪山町の自宅

文化功労者選出

父親は釉薬、生地の研究。20代半ばで陶芸を始めた。初めは量産の陶器を焼く石炭窯や重油窯で作品を焼かせてもらっていたが、当時出始めたガス窯を見て、コンパクトで自分にも持てると思ったという。

鈴木藏さんの作品「志野茶碗」
(2022年、とうしん美濃陶芸美術館蔵)



文化功労者に選ばれた陶芸家の鈴木藏さん(89)＝多治見市虎溪山町＝は、ガス窯で焼く「現代の志野」を追究してきた。現在入院中で家族を通じ「長年やってきたことが認められ、うれしい」とコメントした。

(小森直人)

陶芸家の鈴木藏さん(89)の文化功労者選出について、古田肇知事は25日、「誠におめでとつございます。日本を代表する陶芸家として、これまで数々の優れた作品を世に出してこられたことに、改めて敬意を表します。県現代陶芸美術館で個展を開催されるなど県の文化振興に多大な力添えを頂いていることに深く感謝申し上げます。今後ますますご健勝で活躍されますよう祈念します」などとコメントした。

県知事「文化振興に力添え」

きた。鮮やかに発色する緋色は桃山の志野とは異なる独自の赤の調子となった。ろくろに限らずたたら成形を用いる手法も特徴的だ。読書家で、2022年2月の本紙インタビューに「古風を現在に生かす。『裂古破今』という言葉があるが、いにしえを裂き今を破り未来をどうつくるかを考えている」と語った。同年7月に市内であった国立工芸館館長との対談で「志野

はライフワークになったが、まだ掘り下げたい」と語ったように、新たな表現の探求を続けている。

鈴木 藏(すずき・おさむ) 1934年、土岐市駄知町生まれ。53年、多治見工業高校窯業科卒業後、父通雄氏が勤務する丸幸陶苑の研究室で助手として働き始める。59年、第6回日本伝統工芸展で初入選。66年、独立。自宅(多治見市市之倉町)にガス窯を設置。87年、岐阜新聞文化賞受賞。90年、同市虎溪山町に新たなガス窯を築く。91年、同市無形文化財「志野」技術保持者認定。94年、重要無形文化財「志野」の技術保持者(人間国宝)に認定。2012年、同市名誉市民に推挙。同市虎溪山町在住。89歳。

業に目を向け、関係するビジネスを行う人が増えれば」と期待した。会長兼CEOを務めるバローホールディングスは経営理念をテーマに鈴木さんにオブジェの制作を依頼し「企業として大切にしたい伝統とそれを打ち破っていく力強さを見事に表現された。学び続ける先生の生き方にならいたい」と話した。

高木貴行多治見市長は「心からお祝い申し上げます。先生の存在は市にとって大きな誇りであり、美濃焼文化における数々の功績と長きにわたるご尽力に対し、深甚なる敬意を表します。引き続き美濃焼文化の向上発達にご貢献を賜りますようお願い申し上げます」との談話を出した。

田代正美多治見商工会議所会頭は「素晴らしいこと。今回の選出が一つのきっかけとなり、もう一度地場産